

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 4月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2 2 7 1 3 0 0 1 1 9
法人名	NPO法人 優輪会
事業所名	グループホーム しおん
所在地	静岡県駿東郡清水町徳倉 1274-1 0559-35-6665
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年1月24日

【情報提供票より】(平成 20 年 01 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 05 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.0 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有(288,000 円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(礼金 72,000 円)	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ - 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20 年 01 月 15 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.0 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉山病院 ・ 遠藤クリニック ・ 森田歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設されてから7年目を迎えており、1ユニットのこじんまりとしたホームである。デイサービスと居宅支援が併設され、行事や人的な連携も図られている。法人は障害児・者にも理解を示し、「放課後サポート」や「移動支援」も行われている。地域密着型のホームを目指し、運営推進会議を2ヶ月に1回確実に開催し、地元の隣保班にも加入し、地域活動にも参加している。人員体制が落ち着いてきたこの時期、地域密着型に相応しい理念の見直しとその達成状況を計る物指しを作る時期に来ているように思われる。また、外部評価・自己評価に職員全員で取り組むことにより、更に利用者や家族に喜ばれるホームへの発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者交代もあり未着手だったが、職員体制が落ち着いてきた今、腰を落ち着けて、昨年の要改善項目への取り組みが望まれる。課題を体系的に整理し、一步一步着実に改善を推進されたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は管理者がまとめ、職員の参画は見られなかった。全員参加で取り組むことにより、課題が共有化され、改善スピードも速まるものと思われる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回確実に実施されていた。会議ではホームの現状を報告し、地域や家族の代表から忌憚のない意見をいただき、職員会議でその意見を共有するように心がけている。地域包括ケア会議にも参加し、ホームの運営に生かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情・相談窓口が明示され、日常的には来訪時の面談やTEL相談でご家族のご意見に耳を傾け、それを運営に反映させている。「グループホームしおん あしあと」が新版として復活し、ホームでの暮らしぶり・金銭管理・職員の異動等が定期的に報告されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の隣保班に参加し、地区内運動会の班対抗に参加したり、ホーム行事もちつき・夏祭り・太鼓演奏・フリーマーケット・清掃活動・資源回収・回覧版やゴミ当番などの持ち回り役を行ない、地元との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム名「しおん」に因み、追憶・君を忘れない精神で、設立時に理念が作成されている。が、理念の実現度合いを計る尺度は見られなかった。また、家庭的な環境のみならず「地域住民との交流」を謳うことも必要である。	○	地域密着型に相応しく、運営規程・契約書・重要事項説明書等に「地域住民との交流」を謳うとともに、理念をホームや職員個人にまでブレイクダウンし、理念の達成状況を計る尺度の検討をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の付きやすい場所に理念を掲示し、職員会議や申し送り時に確認しあい、その実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の隣保班に参加し、地区内運動会の班対抗に参加したり、清掃活動や資源回収、回覧版やゴミ当番などの持ち回り役を行ない、地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員体制が落ち着いてきた。腰を落ち着けて、昨年の要改善項目への取り組みや自己評価票作成への取り組みが望まれる。	○	職員全員が分担して自己評価票作成に参加し、昨年の要改善項目を含めて課題を体系的に認識・整理し、一歩一歩着実に改善を推進するよう検討願いたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回確実に実施されていた。会議ではホームの現状を報告し、地域や家族の代表から忌憚のない意見をいただき、職員会議でその意見を共有するように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括ケア会議が2ヶ月に1回開催されており、全体勉強会や施設毎の会議に参加し、共にホームの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホームしおん あしあと」が新版として復活し、ホームでの暮らしぶり・金銭管理・職員の異動等が定期的に報告されている。利用者個々人の報告も復活が検討されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明示されている。日常的には、来訪時の面談やTEL相談でご家族のご意見に耳を傾け、それを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしているが、様々な要因による休業・離職・新規採用が続いていた。ようやく落ち着いてきたので、お便りにも新入や退職の職員を紹介しているが、馴染みの関係作りの努力の継続が望まれる。	○	事業体制や業務内容を見直し、併設施設との連携強化も検討願いたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じて、内部・外部の研修に参加する計画は見られなかった。	○	個人の希望や指示に基づくものだけでなく、体系的な研修計画の作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議やグループホーム協会・ソーシャルワーカー協会などの研修・交流会に参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急激な環境変化を避けるため、出来るだけ体験利用や見学・併設デイサービスの利用等を薦め、事前に馴染みある関係を築くよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時のアセスメントや日常の触れ合いの中から、利用者の感情や言動の発露を待つように心がけ、利用者の生活歴や得意分野を理解し、共に学びあう支援を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人・家族との面談や生活歴から個々の出来ること、得意なこと、嗜好などを把握し、日々の生活の中で実践できるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時のアセスメントを元に毎月の職員会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、家族の要望も取り入れながら介護計画を作成しているが、介護計画書の作成日や更新日、職員全体への周知方法など確認できなかった。	○	日々の介護、ケアは確実に行われているので、定期的に介護計画書が作成、見直しされ、全職員や家族にその内容が伝わる仕組み作りに取り組むみたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議にて利用者ごとに状況変化や、ケアの課題などが話し合わせ、随時介護経過にて見直しが行われているが、介護計画書への反映や定期的な見直しには至っていない。	○	介護計画はホームにおける利用者の介護の基本となる重要なものであることから、定期的あるいは随時の見直しをされ、経過が見えるように整理して行くようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されている利点を生かして、利用者の交流・各種行事への相互参加・職員の協力体制等が築かれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。提携医による2週間に1回の訪問診療を受けている。また、複数の看護スタッフによる支援体制も計画中である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議に終末期対応指針の説明を行ったり、指針や同意書の準備は行われているが、職員間での意識統一やマニュアル整備、医療連携体制の確立までには至っていない。	○	高齢者には容態の急変も有り得るので、早い段階で本人や家族と話し合い、個々の方針について職員間でも共有しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性を尊重したケアに留意しており、日頃の接し方、居室への出入り、ドアの開け放しなどにも注意を払っている。記録類もバックに保管し記入するなど、個人情報の取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が全体の一日のリズムを作り、入浴対応や食事から排泄まで利用者一人ひとりの体調やペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、簡単な調理、片付け等を行い毎日習慣になっている利用者もいる。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日常生活の対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、活躍の場を提供している。簡単な調理手伝いや洗濯物たたみ、新聞取りや掃除、塗り絵、歌などの役割や楽しみごとなど一緒に活動するよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	併設のデイサービスの行事への参加や散歩・買い物など、希望により極力戸外に出掛ける様努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、玄関にチャイムが設置され日中は鍵を掛けなくて、職員の見守りの徹底を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の定期的な避難訓練を行っている。自治会の隣保班に加入し、地域防災計画に組み込まれているが、具体的な夜間協力体制等が築かれている姿は見られなかった。	○	運営推進会議を通じて、防災訓練や災害時の夜間協力依頼を行うなど、地域の人達との輪をより大きくする活動に取り組む願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調により食事の量や形態を調整し、摂取状況を毎日チェック表に記録しているが、食事全体の栄養バランスやカロリー計算、水分摂取量の記録までは行われていない。	○	季節毎に管理栄養士や保健士などの専門家に栄養バランス、カロリー摂取量のアドバイスを求めたり、利用者の健康管理のためにも日々の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールや壁面、廊下などに利用者の書や写真、季節の装飾物などが飾られ、落ち着いた環境が整えられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者がこれまで使っていた持ち物や装飾品、花飾り、写真などが持ち込まれていて、利用者の前の家庭と同じように安心して過ごしやすい場所作りがなされている。		